

2016年度(平成28年度)事業報告

組織運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

- 第1回評議員会 8/25 ウイングス京都
- 第1回理事会 6/9 中京青少年活動センター
- 第2回理事会 8/11 定款第29条(決議の省略)による理事会を開催
- 第3回理事会 8/26 定款第29条(決議の省略)による理事会を開催
- 第4回理事会 11/21 ウイングス京都
- 第5回理事会 12/20 定款第29条(決議の省略)による理事会を開催
- 第6回理事会 3/21 中京青少年活動センター

(2) 人事交流

(公財)京都市国際交流協会と5年目の人事交流となるが、諸事情により1年間出向を休止した。

(3) KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

- 事業計画にKES活動を取り入れ、成果を上げ、今後も青少年育成という事業活動を通して、環境保全、改善活動を推進して評価をいただいた。引き続き、外部への情報発信 市民に向けた啓発に力を入れて取り組んでいる。
- 「祇園祭ごみゼロ大作戦」に協力し、協会職員、利用者にも呼びかけて多くのボランティアスタッフ、当日の運営に協力した。

(4) ディーセントワークへの取り組み

引き続き、協会の就業環境の改善及び就業意欲の向上について、ディーセントワークの視点から検討するタスクチームを継続し、【働きがいのある人間らしい仕事】をめざした職場風土づくりについて検討を進めた。

- 鈴木 暁子(評議員)、齊藤 真緒(理事)に協力いただき現場ワーカーを交えてチームを編成した。
- 協会職員を対象にアンケート調査の結果、傾向をまとめ、職員全体研修会で報告した。
- 報告後、この調査を元に詳細の分析を進め、一定の報告をまとめていく。

I. 協会(本体)事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。

1. ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な団体や機関の活動が、有機的につながることを目的として下記に取り組んだ。

(1) 若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拓ける事業

① 若者に関わる団体の交流・情報交換の場づくり(京都市補助事業)

- 若者に関わる団体若手職員向けの合同研修会を実施した。(1月29日)
- 活動報告・団体交流会を実施した。(2月18日, 25団体34名参加)

② 外部機関・団体と構成する実行組織への参画

- NPOセンター・ユースビジョンと協働して「学生Place+」を運営した。
- 全国若者支援ネットワーク機構に参画した。(理事派遣)
- 人づくり21世紀委員会に参画した。(副幹事長/各区実行委への参加)
- チャイルドライン(こども電話)に協力した。(共催・理事派遣)
- 「AIDS文化フォーラムin京都」運営委員会に参加した。
- ユースACTプログラムに協力し高校生の社会参加体験プログラムを実施した。

③ 青少年育成・支援団体との事業共催・後援

- 育成団体・外部機関・関係団体からの希望に応じて名義共催, 後援, 協力を行った。
- 男女共同参画推進協会との共同での事業企画を行った。
 - *「援助に使えるコミュニケーションスキルアップ講座～デートDV予防実践編～」を共同実施(9/25)
- 連携の窓口の設定。
 - *相談・支援については各青少年活動センターチーフを支援連携担当として指名した。
 - *団体間連携の窓口表示については未着手。

< 共催事業 >

事業名	主催
ユースリーダーシップ研修会	特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
声優養成講座	特定非営利活動法人キダーフィルムフェスト・きょうと
受け手ボランティア養成講習及び既登録者研修会	特定非営利活動法人チャイルドライン京都
ユースACTプログラム	シチズンシップ共育企画
シチズンシップ教育事業 選挙を本音で語る場～ユースVOTERS～	ユースVOTERS実行委員会(シチズンシップ共育企画, ダイバーシティズン, 京都市公共デザイン研究所)
京都アートフリーマーケット2016秋	京都アートフリーマーケット実行委員会
夏季集中学習教室 「縁-enishi-」	右京区役所福祉部保護課
アンダンテ13周年記念不登校経験者シンポジウム	親子支援ネットワーク♪あんだんて♪
地域/社会や政治に参加する市民が育つ学びをどうデザインするか?	日本シチズンシップ教育フォーラム
学習教室 「縁-enishi-」	学習支援団体Apolon
中高生の福祉体験事業 山科ユースアクション2016	京都市山科区社会福祉法人, 山科区ボランティアセンター
こどもフェスタ2016	山科醍醐こどものひろば
ゴールデンウィーク特別企画inむかいじま2016	MJゴールデンウィーク特別企画実行委員会
育成団体bonchic, 上方舞体験教室主催合同発表会	育成団体bonchic, 上方舞体験教室主催

< 後援等事業 >

事業名	主催
京の名店グルメフェア	グルメフェア実行委員会
AIDS文化フォーラムin 京都	AIDS文化フォーラムin 京都運営委員会
京都やんちゃフェスタ2016	京都市, (公財)京都市児童館学童連盟, 京都子どもネットワーク連絡協議会
28年度こころのサポート講演会	非営利活動法人「若者と家族のライフプランを考える会」
KYOTO UTA FESS	KYOTO UTA FESS実行委員会

④関係行政機関・関係団体への協力(協力事業)

協会のもっている“資源”をもって、外部機関・団体との連携・協力を行った。それによる対価は事業収入として確保した。

○行政機関、他団体に委員等を派遣した。(市関連/市教委関連/他公益団体関連)

- * 京都市社会福祉協議会(評議員)
 - * 京都市青少年活動推進協議会(委員)
 - * 京都市児童生徒登校支援連携協議会委員
 - * 京都市多文化施策審議会(委員)
 - * 京都市HIV感染症対策有識者会議(委員)
 - * 京都市子どもを共に育む市民憲章推進委員会(委員)
 - * 京都市児童館学童連盟(理事)
 - * 京都府レクリエーション協会評議員
 - * 社会福祉法人西陣会(評議員)
- 主なもの

○外部機関・施設などからの依頼に応じて、企画提供や講師派遣などの協力を行った。(主なもの)

滋賀県立大(生涯学習論)ゲスト講師(5/23)
京都教育大学 社会教育論 学外研修(5/20)
大阪教育大学(生涯教育実践研究)ゲスト講師(5/20)
茨木市ユースアドバイザー養成講習会ファシリテーター派遣(6/24)
滋賀県立大学 フィールドスタディ 視察受け入れ(山科・下京)(7/16)
名古屋市青少年プラザ「語れ学人のこれから」講師協力(7/18)
奈良教育大学「キャリア形成と人権」授業ゲスト講師(7/26)
京都市立桃山中学校リーダー研修講師派遣(8/3)
市立学校教員選考試験(8/20・21)民間面接員
NPO法人D×P(塔南高校「クレッシェンド」)への協力(8/23)
ガクシン デートDVに関する座談会(10/7:アドバイザー)
京都府更生保護女性連盟ブロック研修への講師派遣(9/23)
社会教育施設職員の学び合い講座(大阪教育大)講師(9/29)
不登校フォーラム コメントーター(11/6)
京都市ケースワーカー研修講師(11/22)
NPO法人ユースビジョン職員研修 講師(11/28)
らくさいライフスタイル(子育てワーキンググループ)への講師派遣(12/20)
健康長寿のまち・京都いきいきフェスタ(11/26:ステージ企画運営と利用グループの発表)
栗陵学区地域生徒指導連絡協議会研修への協力(2/16)

○少年非行の減少や軽減につながる取組での連携

スクールサポーターの活動に協力する(センターを使って少年との面談及び学習指導)とともに、非行少年の立ち直り支援活動の場を提供した(北センター:地域清掃)。

○大学コンソーシアム京都連携科目「ユースサービス概論」を開講(立命館大学と共同)した。

(2)若者に関わる情報の受発信事業(京都市補助事業)

○ユースアクションプラン認証事業と連動させWEBでボランティア情報を発信、紙面を1回発行した。

○広報誌「ユースサービス」の発行。

想定する読者は18歳以上の人。各事業所と連携した企画・取材を取り入れて記事内容の充実を図った。

第25号～第27号を発行(4,000部)し、関係団体や個人、学校、大学他公共施設・機関に配布した。

- * 第25号/9月号 特集「若者×ダンス」
- * 第26号/1月号 特集「若者×多文化共生」
- * 第27号/4月号 特集「若者×地域ボランティア」

2. 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業。シティズンシップ開発や地域参加、青少年活動センター運営への参画を進める取り組みを実施した。

(1)若者の青少年活動センター運営参画

○6センターの運営協力会(育成委員会)に若い世代の委員に加わってもらった。また青少年メンバーによる部会を設置し、センター運営への意見提案やプログラム企画をしてもらった(中京/山科)。

○センター施設運営(ロビー活用等)に若者の意見を取り入れる試みを実施した。

(2)シティズンシップ教育につながる事業の実施(京都市補助事業)

○協会独自のシティズンシップ教育事業の開発・実施

*企画委員会タスク立案による「選挙を本音で語る場～ユース VOTERS～」に共催した。

○若者の地域参加, 政治参加, 行政への参画を進める事業の実施

*18歳からの政治参加～選挙を通して参加を学ぶ～

京都市選挙管理委員会による出前講座と企画委員会タスクメンバーから質問づくりワークショップを実施した。

*参院選期間に「当選者に伝えます! 実現したい若者政策」と題し7センターにて掲示板投稿型事業を実施した。お金に関する要望が多く, 文化・スポーツに関する提案・要望が一切ないことが特徴的であった。

*若者の地域参加を進めるプログラムを北, 下京, 山科青少年活動センター他で実施した。

*寄付の教室(2/25)を日本ファンドレイジング協会, 京都地域創造基金との連携事業として実施。高校生6名が参加した。オプションとして助成金審査会(3/12)に審査委員として1人が参加した。

3. 担い手育成事業

ユースサービスの担い手育成を目的として, ユースワーカー資格認定, インターン・実習の受入, ボランティア研修を実施した。

(1)ユースワーカー養成・資格認定事業

○年に2回の講習会を基礎講習として, その後の資格取得コースを運営した(参加4人)。

○東北に続いて関東等で講習会実施を目指したが調整できず, 実施に至らなかった。

*「ユースワーカー養成講習@石巻」を共催実施(10月) 主催:NPO法人 TEDIC

○資格制度の整備(継続研修や更新制度等)については検討を具体化できなかった。

(2)インターン受入れ/ボランティア育成・研修事業

①実習生/インターンシップ受入れ・指導事業

○大学コンソーシアムからのインターン生の受入れ(パブリック:5人 プログレス:1人)。

○京女大社会教育実習受入れ(基礎実習:東山センター4人, 社会教育実習:5人)

○立命館大学シティズンシップ・スタディーズ(下京センター7人)

○立命館大学全学インターンシップ生受入れ(各センター14人)

○京都橘大学夏季インターンシップ生受入れ(山科センター:1人)

○京都府立大学公共政策実習の受入れ(北センター:4人)

②協会事業に関わるボランティア及びNPO等関係団体のスタッフ養成を行う。

○中3学習会ボランティアの全体研修・交流を2回実施し(6/19, 12/4)1回目は, ボランティア募集とセットで行った。2回目は, ボランティアや職員からの希望により, 教科指導についての講義と検討会を行った。

○ユースビジョンと協力して, 市民活動団体スタッフ研修を実施した。(1/29)

○その他課題別研修の実施。(各センターでのボランティア研修の実施)

4. 調査・研究事業

新たな事業展開の機会をつかみ, 社会的要請を先取りするため幅広い調査・研究活動を行った。

(1)立命館大学との共同研究(ユースワーカー養成/若者学研究)

①ユースワーカー養成に関する立命館大学との共同研究

○アカデミックベース強化, 資格制度作りに向けた研究協議を継続して行った。(定例研究会3回実施)

*共同研究メンバー

(立命側)野田正人氏・荒木寿友氏・小西浩嗣氏・中村 正氏・齊藤真緒氏 (協会側)水野・横江・竹田

*公開研究会「ユースワークの価値を考える」を開催(3/25)

○「若者学研究会」を立ち上げ8回の研究会を開催した。立命大の学生・院生を中心として10人程度で実施。

○ユースワーカー養成の在り方の検討

*外部研究者の研究チーム(以下)に参画しワーカー養成の在り方についての研究を進めた。

②ユースワーカー養成プログラムの実施

○大学院(応用人間科学研究科)でワーカー養成コースを共同運営した。

(概論) 5人受講／(演習・実習) 3人受講 東山・南・山科センターで3～5ヶ月の実習を行った。

(2)外部機関・研究者等との共同研究

他都市での実践や専門職養成についての調査・研究に加わり、ユースワークについての検討を進めた。

- 「若者援助・政策とSocial Pedagogy研究会」(法政大学・平塚科研費研究)に継続参加。
 - *引き続き4年間科研研究に参加することとなり、ヨーロッパ研修に参加した。
- 子ども若者支援専門職員養成研究への協力
 - *奈良教育大の生田教授を代表とし社会教育研究者による研究会に参画(研究協力者)した。「子ども若者支援士(仮称)」養成に向けた調査・検討に参画した。
 - *横浜・札幌・神戸の財団／NPOとの調査結果を基にして、職員の専門性や養成・研修のあり方について検討するとともにYW協議会設立にむけて協議を行った。

(3)テーマを定めた調査研究の実施

- 若者調査(特定費用充当事業)の本調査を実施した。
 - *11人のユースサービス事業への参加青年へのインタビューを中心に、ユースワークの価値明確化に向けた分析を行った。外部への成果発信は次年度に行う。
 - *外部協力者: 原 未来氏(滋賀県立大)・松村幸裕子氏(協会理事)・石山裕菜氏(企画委員) 勝部 皓氏(Atlas)
- ☆調査研究成果を政策提案する。
 - 政策発信までは出来なかったが、広報誌「ユースサービス」記事を通して成果発信を行った。

5. 事業・組織開発及び内部人材育成

協会組織・事業運営が、社会的要請に応えたものであり続けるための仕掛けとして取り組んだ。

(1)企画委員会と協働した社会ニーズ・課題把握とそれに取り組む事業開発

- 協会の新たな事業課題への取り組みの在り方について、以下の5つのタスクグループを作り、現場ワーカーも含めて検討した。6月の理事会にて活動報告を行う。委員会を5/22及び5/26に開催した。
 - ①若者の政治参加 ②若者と食(の安全保障) ③学生や若者の“恋愛”とSNS
 - ④地域におけるユースサービス ⑤若者と発達障害・精神疾患

<企画委員一覧>

斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部准教授	知名 純子	まるいクリニック医務部長／PSW
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表	山本 卓司	京都市教委生涯学習部首席社会教育主事
谷口 肇	法務省浪速少年院法務教官	幸重 忠孝	幸重社会福祉士事務所代表
石山 裕菜	同志社大学院生(博士課程)		

(2)企画委員会の検討及び調査研究の成果の具体事業化

- セクシュアルヘルス事業(一般社団法人未来支援委員会助成金充当)
 - *京都精華大学の学生の協力を得て新リーフレットを作成した。従来の日本語、英語、中国語に加えて、ハングル、タガログ語を追加した。
 - *若者支援者向け研修、学生ボランティア向け研修の他、センターを横断した恋愛カフェ、世界エイズデーへの参画、若者の参加を得てWEBサイトの作成を行った。
 - *京都市男女参画推進課のデートDV 予防啓発DVD 作成への協力をを行った。
- ☆若者と「食の安全保障」を考える取り組み
 - センターにおける既存事業に付随させて「食」に関わる取り組みを実施した。山科センターにおける「子ども食堂ネットワーク」や中3学習会での展開を行うとともに、冊子をまとめた。
- ☆センターの無いエリアでの「地域におけるユースサービス」
 - 主に洛西地区をモデルとして、若者の場や様子についてヒヤリングを重ね、ユースサービス展開のあり方について検討・模索した。

(3)戦略的な広報の取り組み

- 広報戦略プロジェクト＝職員の広報に対する意識向上と社会的な認知を高めるための取り組みを行った。
 - *前年度広報計画に基づく事業所対抗の広報コンペを実施した。

- * 協会の活動を広く支援者に理解してもらうための動画CMを、Facebook 広告に用いた。
- 広報室＝プロジェクト終結に伴い、10月から編成・稼働させた。
- * ミッション・ビジョンの確認／SNS 広告の実施／ブローシャー改訂／不動産屋等新規広報先開拓
- 広報の全体調整
- * 広報データの更新・管理／協会広報物の全体調整／ホームページの管理・分析・調整
- * 協会事業の事前告知／取組・事後発信の調整／YAP認証事業やイベントガイドの活用 他

(4) 寄付・協賛獲得のための取り組み

- 賛助会員制度の運用に向けて、規程、様式(案)、会員証を作成、運用に向けて準備を整えた。

(5) スーパーバイズ・コンサルテーションの実施

- 現場スタッフを支え、業務の質的な向上をはかるためにスーパーバイザー(山本智也氏:大阪成蹊大学)を委嘱し、年間を通してコンサルテーションが受けられる体制を維持した(年間14回実施)。
- * 緊急なケースについて臨時のコンサルテーションも実施した。
- 内部スーパーバイズ制度についてはセンター相談事業について検討した(2017年度に実施予定)。

(6) 事業評価の実施

- 事業評価のサイクル(目標設定→評価→枠組みの再構成と計画への反映)を業務の中に位置づけた。
- 「外部評価者」の参画を得て評価会議を行い、事業所間・ワーカー間の相互評価とともに外部の視点を事業の捉え方に反映された。
- 北・下京センターの事業テーマの見直しに向けた検討と中期評価に取り組んだ。

(7) 研修室による社会的に求められる人材育成

- 研修室を運営し年間研究計画に沿った研修を実施した。今後の組織基盤強化に向けて計画的な人材養成に向けた取組を進めた。
- * 新人職員研修(①職員・ワーカーとしての基礎 ②現場での実践記録を作成しSVを受ける)
- * 若手職員研修(ワーカーとしての基盤となるスキルについて自らがテーマを設定し学ぶ研修を実施)
- * 外部派遣研修(多様な外部研修機会に職員を派遣した)
- * チーフ・管理職向けのハラスメント研修の実施(職員全員にハラスメントアンケートも実施)
- 職員による事例研究会を定例開催した(年間10回)。
- 全職員が参加する「全体研修会」を実施した(5/25)。
- テーマ別の研修を実施した(10/19薬物乱用に関して・11/15自殺防止について)。

(8) 台帳/利用案内の電子化

- 台帳電子化については全センターでの移行を概ね完了した。また東山・中京センターにおいてはボードによる利用の掲示から、デジタル掲示に切り替えて、効率的で見やすい利用案内を進めた。

6. NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施(京都市補助事業)

民間支援団体の支援事業(以下の10事業)に対して助成することを通し、支援活動を促進するとともに、指定支援機関と民間団体、民間団体相互の連携・協力の機会を設定した。(P10に再掲)

親子支援ネットワーク♪あんだんて♪/京都ARU/京都オレンジの会/京都教育サポートセンター
 恒河沙母親の会/まちの学び舎ハルハウス/エイドネット cafe/勇気の出るライブ実行委員会
 若者と家族のライフプランを考える会/京都老人福祉協会 就労継続支援A型 ワークパートナー YUI
 (京都オレンジの会は諸事情により途中辞退)

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者/のべ数	備考/実施場所等
セクシュアルヘルス事業(WEB作成)	座談会:11/10, 2/11	2	8名	企画会議を5回実施
ネットワーク形成事業/合同研修	1/29(日)	1	6団体, 9名	
活動報告・団体交流会	2/18(土)	1	25団体, 34名	
YW資格認定事業(講習会出張含む)	10/22~23	1	14人	石巻にて開催
シティズンシップ形成事業	7/3~16	1	172名	7センターで実施
「当選者に伝えます!実現したい若者政策」				
寄付の教室	2/15, 3/12	2	6人(のべ7)	寄付審査に参加
18歳からの政治参加	5/16	1	9名	
「選挙を通して参加を学ぶ」				

Ⅱ. 子ども・若者支援事業及びその他受託事業

1. 京都若者サポートステーション受託事業（厚生労働省及び京都市委託）

無業状態の15歳から39歳までの若者（学生除く）に対し、職業的自立に向けた支援を行った。今年度より「若者雇用促進法」において規定されることとなった。一方で、景気が上向きであることから、サポステ利用は全国的に減少傾向であり、京都においても同様に新規登録者数・就職者数が減少している。

(1) 入口支援事業

①窓口インテーク（ユースワーカーがインテーク面談）

②個別対応（ユースワーカーによる個別相談）

○特に、緊張感が高い利用者に対して関係づくりをしながら思いを整理する、事業との繋ぎの面談をする、専門相談を補完する形で個別相談をするなど、間を繋ぐための支援に取り組んだ。

(2) 専門相談事業（専門相談員による）

①臨床心理士によるこころの相談（月・水・木曜）

②キャリアコンサルタントによるキャリアの相談（火・金・土曜）、保護者相談（月2～4回）を実施。

(3) 就活基礎力：職業に就くための、基礎的な能力を学ぶ。

①演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク（東山）

○即興演劇の手法を用いて、表現することを体験的に学ぶワークを実施。

②じぶんみがきダンス（伏見）

○東山のインプロと同様に即興でのダンスの手法を用いて、表現することを体験的に学ぶプログラムを実施。

③アジプロ（南・山科）

○青少年活動センター内での就労体験プログラム（南＝喫茶、山科＝事務）を実施。丁寧に体験を振り返るプロセスを踏むようにしている。

④イマココトレーニング

○マインドフルネスの手法を用いて、今ここの自分自身の状態を客観視しつつ、心身のリラックスを体感し、緊張緩和するプログラムを実施。

⑤キャリアコロ（キャリア・サイコロ）

○サイコロの出た目に合わせた話をし、徐々に少人数から全体に繋げ、会話力アップを目指すプログラム。

⑥キャリアコロアドバンス

○題目設定をせずに全体で話す。参加者の意見を取り入れ、女性限定の「女子会」や職業体験参加者の体験談を聞く「座談会」、枠を極力設けない中での過ごし方を体感する「フリー」など、さまざまな形式で実施。

(4) 就活実践力：基礎力の次ステップとして、就活で実践できる能力を学ぶ。

①チートレ（チームワークトレーニング）

○月1回の発送作業において、役割分担し作業する体験の場を設定。

②自分を知って仕事に就こう

○過去の経験や現在の自己イメージを明確にし、将来ビジョンを作成し、実行可能なキャリアプランを作成する講座を実施。

③就活面接対策講座

○模擬面接の様子を映像で振り返る作業を通して面接の所作を学ぶ講座。面接で想定される質問に対する回答を考え、実践する講座。履歴書で志望動機・自己PRを作成するポイントを学ぶ3つの講座を実施。

④電話をかけよう！電話を受けよう！

○電話応対に自信がなく、一歩を踏み出せない利用者の後押しのために電話応対・ビジネスマナーの講座を2種類実施。

(5) 保護者支援事業「親こころ塾」

○無業状態の我が子との関わり方について悩む保護者が、捉え方・かかわり方を学ぶプログラムを実施。

(6) 職場体験事業

①中間的就労「野菜づくりから仕事に近づく」（北）

○一連の農作業（畝づくりから収穫、販売まで）を体験する4か月間のプログラムを実施。

②ゆず加工体験

○水尾地域でのゆず加工に携わる5日間の就労体験を実施。

③チャレンジ体験事業（3～4週間の就労体験とその後の継続雇用のためのプログラム）

- 宿泊施設、コンビニ、青少年活動センターでの体験を実施。受入先として、配食サービス、喫茶での製造・販売、着物レンタル、高齢者福祉施設、障害者福祉施設等を新規開拓したが、実際の体験には至っていない。
- 上記以外の職場体験として、IT企業での職場体験を昨年度に引き続き実施。

(7) サポステ周知事業

① 広報事業

- 従来のパンフレット・チラシ送付、HP・サポステネットでの広報を実施。新聞折り込み広告に掲載するが、対象層とは違う反応であった。各種ネットワークでのサポステ紹介依頼が多く、ネットワークを通しての広報に精力的に取り組んだ。

② 地域出前相談会

- ハローワーク京都七条での出張相談を毎月実施。ハローワークプラザかめおかでの出張相談を1～3月に新規実施。京都産業大学との連携による出前相談を卒業式に併せて2日間実施。卒業後進路未決定者が参加した。

(8) 外部機関連携事業

① 大学連携(京都産業大学での出前相談会を実施)

② 高校連携

- 進路未決定で卒業予定の生徒や中退者への支援のため、市内4校(1校は青少年活動センターより訪問)に訪問を実施。また、通信制高校との連携を模索した。

③ 福祉機関連携

- 就労移行支援事業所ネットワークでのサポステ紹介や各福祉機関と個別に連携を前提とした相互の取り組み理解のための協議に取り組んだ。

④ 企業連携

- 新たに中小企業家同友会・各支援機関との連携による、障害者就労支援・求職困難者就労支援の2つのネットワークに参加。サポステ対象層と中小企業とのマッチングから企業実習・就労に繋げる仕組みづくりに取り組んだ。

(9) 定着・ステップアップ支援事業

- 就職が決定して以降も、職場の定着や正規雇用へのステップアップの課題は存在しており、定着・ステップアップを目的にした個別相談、セミナー等の事業を実施した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者・のべ数	備考/実施場所等
アジプロ南 喫茶体験	5～6月, 10～11月, 2～3月	21	11/78	南センター
アジプロ山科 事務体験	2～3月	6	4/24	山科センター
チャレンジ体験 宇多野	6月 1～2月	30	2/30	宇多野コースホステル
チャレンジ体験 中京事務	5～6月	10	1/10	
チャレンジ体験 セブンイレブン	8月, 10～11月, 2～3月	33	3/33	セブンイレブン
IT体験	6～7月	3	1/3	ISFネット
ゆず絞り体験	11月～12月	6	2/12	水尾地域
農業体験(野菜作りから仕事に近づく)	5～9月	58	4/234	岩倉/北/中京
自分を知って仕事に就こう	9月	3	11/30	
イマココ	4月～3月	12	39/109	
キャリコロ	4月～3月	12	35/80	
キャリコロアドバンス	4月～3月	13	23/70	
キャリコロフリー	4月～3月	5	14/23	
キャリコロアドバンス女子会	10月・2月	2	12/15	
キャリコロアドバンス就労体験談	4月～3月	1	11/11	
面接対策	4月～3月	21	32/60	
面接対策(履歴書)	4月～3月	2	6/6	
面接直前対策	4月～3月	5	9/9	
デンワをかけよう!	4月～3月	11	26/34	
デンワをうけよう!	4月～3月	6	13/16	
チートレ	4月～3月	15	44/80	
インプロ東山	7～8月, 10～11月, 2月	14	25/94	
インプロ伏見	10～11月	5	7/26	
親こころ塾	7～8月, 2～3月	6	33*93	

2. 子ども・若者総合支援事業(指定支援機関受託業務)

子ども・若者支援地域協議会において、支援の主導的役割を担う指定支援機関として、関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また、中京青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て、ひきこもり地域支援センターとして位置づけられている。

(1) 個別ケース支援(支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理)

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して、支援コーディネーターが相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて、住居やその近隣の施設などへのアウトリーチの方法も用いて支援を行った。

- 支援ケースは102ケース(前年度からの継続:83ケース, 新規:19ケース)。昨年度から継続が増加。総数は減少しているが、対応回数は増加。
- 年度内に、支援を始めて6ヶ月経過した25ケース中、10ケースが状態の変化が見られた。状態変化の割合は44.4%から40.0%に減少(ひきこもり状態の若者の支援が増加傾向にあることが要因)。
- ケースの約7割がひきこもり区分で増加傾向。本人に出会えない状態から始まるケースが半数を超えた。
- 本人支援のためのアウトリーチは、37ケース129回(うち家庭訪問は6ケース40回)実施。ケース数、回数ともに増加(家庭訪問はケース数、回数ともに減少)、手紙での支援も56回増加した。

(2) 支援地域協議会との連携

必要に応じて、個別ケース検討会議を実施するほか、地域協議会に設置された課題別検討部会(ひきこもり支援チーム)における検討等を通して、構成機関と連携しながら、支援を行った。

- 個別ケース検討会議を61ケース、のべ332回実施(前年度は50ケース, 述べ236回)。ケース数, 実施回数とも増加した。
- 代表者・実務者会議(2回)とともに、課題別検討部会を3回実施。ケースに基づく課題の検討を実施した。

(3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

民間支援団体の支援事業に対して助成することを通し、支援活動を促進するとともに、指定支援機関と民間団体、民間団体相互の連携・協力の機会を設定した。

- 10団体の事業について採択、助成。
親子支援ネットワーク♪あんだんて♪/京都ARU/京都オレンジの会/京都教育サポートセンター
恒河沙母親の会/まちの学び舎ハルハウス/エイドネット cafe/勇気の出るライブ実行委員会
若者と家族のライフプランを考える会/京都老人福祉協会 就労継続支援A型 ワークパートナー YUI
(京都オレンジの会は諸事情により途中辞退)
- 講演会+NPO活動紹介・交流会「ひきこもる若者 みまもる家族～コミュニケーションの視点から～」を開催した。(11/27)
講師:長谷川 俊雄氏。定員170名を上回る187名が参加。交流会には助成団体のうち9団体が出展。講演会, 交流会とも非常に好評であった。

(4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられている「若者サポートステーション」, 「青少年活動センター」と、総合相談窓口・支援室とが密接に連携し、子ども・若者の総合的な支援に努めている。

- 総合相談窓口, 支援室それぞれのスーパーバイズをオープン化。各センター, サポステから職員が出席し, 連携を図った。
- 若者サポートステーション, 青少年活動センターの紹介による子ども・若者, 家族, 機関からの相談:25件
- 青少年活動センター, 若者サポートステーションのユースワーカーからの相談:29件
- 相談窓口における, 若者サポートステーション・青少年活動センターへの紹介:183件
- 支援ケースにおける, 青少年活動センター・若者サポートステーション機能の利用:65回

(5)ピアサポーター養成・派遣事業

昨年度に引き続き、対象となる子ども・若者の社会的自立に向けた支援に協力する「ピアサポーター」の養成派遣を実施した。

- 対象者と同世代で、ひきこもり等生き辛さの経験がある方をNPO等民間団体より推薦いただき、10～11月にピアサポーター養成プログラムを実施。11名が参加し、6名修了。新規登録者が5名で登録ピアサポーターが16名となった。
 - ピアサポーターミーティングを月1回継続。活動のふり返りや検討、ニーズに応えた形での研修を行った。
 - ミニグループ活動(モノタメ:ものは試しの略)を月1回実施した。
- ピアサポーターの派遣は14ケース、のべ56回。訪問同行・本人や保護者の面談同席・ミニグループと活動内容の幅も広がり、ケース数、回数ともに増加した。

(6)子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応、外部での講演等の機会を通じて、子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。

- 子ども・若者総合支援に関する視察・調査対応:11件(前年度:14件)
- 外部発表・出展:14件(前年度:10件)
- 総合相談窓口を広報としてトラフィカ京カードの広告作成

(7)京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体やNPO団体等が実施する、子どもから大人へと成長する青少年を支援する取組に対して、「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証し、活動を促進した。

- ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った。(認証した事業175件)
- ユースアクションイベントガイド夏休み号(30,000部、約300か所に配布)と、ボランティア特集号(10,000部/500箇所)に配布)を発行した。
- WEB版のユースアクションプランイベントガイドを毎月更新し発信した。

(8)総合相談窓口事業(青少年活動センター指定管理業務)

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を中京青少年活動センター内に設置し、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また「ひきこもり地域支援センター」の相談窓口としても対応している。

- 新規相談は、441件。前年度(408件)より増加。
- 上記新規相談のうち、本人からの相談は143件(32.4%)であった。相談内容は「ひきこもり」が36.3%と最も多く、その他にも多様な相談を受けている。不登校が減少し、就労が増加した。
- 年代別では、10代が26.7%(前年度:27.5%)、20代が46.5%(前年度:42.4%)、30代が19.0%(前年度:21.3%)であり、10代の相談割合が減少傾向にあり、20代が増加傾向にある。

3. 中学3年生学習支援事業(京都市保健福祉局からの委託)

生活保護世帯や「生活困窮」世帯、「ひとり親家庭」において進学を目指す中学生を対象として、学習支援を行う取組を実施した。BBS会及び地域のNPOや民間団体、大学等の協力を得て集まった大学生を中心とするボランティアが、1対1の形で勉強を教えて進学を支援すると共に、相談相手になることで中学生の成長を支える活動を行った。今年度は「食」の面での支援を北中3学習会で実施し、参加者の自立を支援する活動も行った。

今年度、醍醐エリアに1ヶ所増設、東山・下京に1ヶ所ずつ新設し、拠点数は14ヶ所となった。

○中学生(一部高校生を含む)の登録者は170人あまり。200人を超えるボランティアが協力した。

○年間671回の学習会を開催し、学習者はのべ約3,200人、ボランティアはのべ約4,300人が参加した。

<各地域での実施状況>

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	17	10	毎週木曜日	BBS会と連携
伏見青少年活動センター	13	14	毎週木曜日	BBS会と連携→単独運営化
山科青少年活動センター	19	10	毎週金曜日	NPOと連携
南青少年活動センター	15	11	毎週木曜日	単独運営
洛西(コワーキングスペース)	25	13	毎週金曜日	地域団体と連携
中京青少年活動センター	17	32	毎週金曜日	学習支援団体Apolonと連携
小栗栖(こどものひろば事務所)	6	10	毎週火曜日	NPOと連携
右京(山ノ内社会福祉会館)	19	25	毎週木曜日	花園大学と連携
左京(左京区役所)	10	19	毎週金曜日	ノートルダム女子大他の協力
深草(龍谷大町家キャンパス)	7	23	毎週火曜日	龍谷大学の協力
西京(西京児童館)	11	11	毎週月曜日	市社協の協力
東山青少年活動センター	9	10	毎週金曜日(7月から)	地域団体と連携
醍醐(こどものひろば)	3	24	毎週木曜日(7月から)	NPOと連携
下京青少年活動センター	3	5	毎週火曜日(10月から)	

* 洛西での実施は下京青少年活動センターがボランティアのコーディネートを行うとともに、地元育成グループにコーディネーターを出していただいた。

* 右京では花園大学教員にコーディネートを依頼している。

* 深草では、龍谷大学文学部に協力いただき、教職課程の学生がボランティアとして実施している。

* 西京では、京都市社協の協力により西京老人福祉センター・デイサービスセンター・児童館の合築施設を会場に提供いただき実施している。

* 東山では、地域で活動する支援団体にコーディネートを依頼している。

* 小栗栖・醍醐ともにNPO法人山科醍醐こどものひろばにコーディネートを依頼している。

* 中学生の受験が近づく秋以降、ニーズに対応して、いくつかの学習会で他の曜日にも実施した。

Ⅲ-1. 北青少年活動センター

全体の動向

2016年度と比べて、部屋利用率は微増、利用者数は4,753人増加した。昨年度に引き続き、北山三学区をはじめ、センター周辺の地域との関係づくりに重点を置いた。また、ロビー事業により、ロビーに滞留する青少年が増え、声掛けするチャンスも増えた。

1. 自然体験・環境学習事業

①里山体験プロジェクト

- 自然と暮らし・文化を感じるプログラムを実施した。「大文字ナイトハイク」では、ナビゲーターから珍しいキノコや粘菌、野生動物の痕跡を観察したり、城跡を見学した。
- 「ゆず絞り体験」では、地元の方から水尾地域の歴史や柚子栽培についての話、さらには農山村地域での暮らしや過疎の現状についてもお話いただき、理解を深めた。

②こども自然体験クラブ

- 月2回ボランティアとミーティングを行い、北区周辺で子どもを対象とした、自然体験プログラムを実施した。昨年度の地域とのつながりを活かし、北山三学区(小野郷、雲ヶ畑、中川)でプログラムを実施することができた。また、府立植物園にて、ボランティアだけで企画をしたプログラムを実施し、自主性を養うきっかけを作ることができた。

③環境負荷の少ない施設運営と啓発

- KESの取り組みの一環として、紙屑の回収、節電・節水・ゴミの分別、「祇園祭京都ごみゼロ大作戦」への参加など、利用者に協力を呼びかけるとともに、ウェブサイトやFacebookでも発信した。

2. 居場所づくり支援事業

①みんなの居場所〜ごぶSAT(ごぶさた)

- コミュニケーションが苦手など、何らかの課題を感じている青少年を対象に、料理やレクリエーションなどのプログラムを実施した。また定期的に個人面談を実施し、それぞれが感じる課題を本人と共有した。参加人数が増えたために、1月より月1回(第2土曜日の次の火曜日)増やし、月3回実施とした。

②アフタヌーン亭(しゃべり場)(地域若者サポーターの協力)

- 地域若者サポーターとセンター利用者とのしゃべり場事業。2015年度まではごぶSATの前に実施していたが、参加者増に伴い、ゆっくり話せなくなったということもあり、第1土曜日に変更した。参加人数は減少したが、目論見通りゆっくり話したい人たちが参加するようになった。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域活性ボランティア

- 地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と月1回、定期的に紫明通りの清掃活動を行った。
- 北区民春まつりに参加協力したり、地域のイベントのブース出展(FUNAOKA STANDARD, 新大宮夏祭り, 楽只まつり)にも参加した。今までは環境啓発を意識したブースが多かったが、子どもたちが楽しめるゲーム性のあるものへと変化した。

②伝記作成プロジェクト

- 青少年がセンター周辺の高齢者から人生のお話を聞き取り、手づくりの冊子(伝記)にまとめ、敬老の日に合わせて贈呈した。参加者にとっては、いろいろな生き方や仕事観を聴くなど、新たな価値観に触れることができた。また冊子づくりを通して、達成感を得ることができた。

③サンタになろう!(サンタクロス・プロジェクト)

- クリスマスイブの夜に、青少年がサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた。今年度は、期間を短くすることで、ボランティア参加者の負担を減らすことができた。その結果高校生も参加するなど、参加層の広がりはあったが、ボランティア人数はあまり伸びなかった。

④北コミまつり(北区身体障害者団体連合会と共催)

- センター全館と保健センターの一部を使用し、活動発表のステージや、障がいについて理解を深めるブースを企画実施した。今年度は、学生のボランティアと協働で企画実施して、巨大太巻きなど今までとは違う、祭りとして楽しめる要素を増やした。また保健センターのフロアも利用し、ブースの数としては最大規模で実施できた。

⑤恋愛相談ブース(保健センターと連携)

○「北コミまつり」内でHIV予防・啓発に関するパネル展示と性感染症に関するアンケート、自由に恋愛について相談できる場所を設けた。恋愛相談ブースは、保健センター職員と共に、LGBTやSTDに関する知識を有する若者が企画運営を行った。

⑥つながるワークショップ(北区役所との協力事業)

○北区役所主催のまちづくり事業(ワークショップ)の企画・運営を、関係する機関と協働して行った。

⑦北区学生×地域応援団(北区社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携)

○北区内の4大学(京産大、立命館大、佛教大、大谷大)と、北区社協、まちづくりアドバイザー、北青少年活動センターが協働し、情報共有ができる場として機能した。さらに「学生と地域とを結びつける場」のプラットフォームとなるべく、待鳳学区をパイロット地域として設定し、「北区若者まちづくりサポーター養成講座」を実施した。当学区で実施している祭りなどを視察した。

4. 担い手育成に関わる事業

①自主活動支援事業

○青少年による自主的な企画を実施するために支援協力したが、登録グループはカフェピースのみであった。

②きたせいボランティアネットワーク「KITARA」

○北センターで活動するボランティア同士の横のつながりを増やすために、交流の場を設けた。今年度は、活動報告や大掃除、交流会などを4回実施した。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①きたせいフリータイム

○今年度は、卓球とダンスのフリータイムを実施した。ダンスに関しては参加者が少なかったために、実施できない月もあった。それに反して卓球は、従来多かったほかのセンター事業参加者だけではなく、サポステなどの登録者や卓球を久しぶりにやりたいといった青少年の参加があった。また、この事業からごぶSATへ参加したり、部屋の利用へとつながったりと、センターの入り口としての役割を達成できた。

②自習室

○青少年が集中して勉強するために自習室を開放した。登録制に変更したことで、登録時にワーカーとの会話が生まれ、これをきっかけに他の事業に参加するなどの流れが見られた。

③広報充実事業

○大学ボランティアセンターが主催するボランティア説明会や、大学の授業内でセンターの取り組みについて説明し新規ボランティアの獲得やセンターの周知を行った(京産大、立命館大、佛教大、大谷大、京都女子大学の5大学)。

○近隣高校である、清明高校へ部屋利用などのチラシを全校生徒へ配布した。

6. 相談・支援の取組

①ロビーにおける情報提供事業

○「何でも質問・何でも相談コーナー」を設置し、情報提供と相談を合わせて207件が寄せられた。

②相談事業

○件数は253件・452回と前年度(445件・545回)より大幅に下回った。これは上記「何でも質問・何でも相談」から相談件数へ挙げていたものを、整理したため減少した。

○情報提供を除く相談では、様々な困難を抱える若者の継続相談があり、それらに対する支援を模索するために、ワーカー同士で考える場面が増えた。

③「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働く事を考える16週間～」(職業ふれあい事業)

○中間的就労の場として、野菜づくりの一連の流れ(畑づくりから種まき、水やり、収穫、販売まで)を体験し、自信をつけたり、生活リズムが整うなどの変化が見られた。

○少人数でのグループ体験を通して、お互いに励ましあったり、時には注意をする関係が構築できた。達成感や信頼感を得る機会となり、4名の参加者の内、3名が就労(アルバイト含む)に結びついた。

④中3学習会

○生活保護世帯等の中学生を対象に、高校受験に向けた学習会を立命館大学衣笠地区BBS会の協力を得ながら実施した。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

○京都府の「立ち直り支援チーム(ユース・アシスト)」に協力し、家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして、地域若者サポーターとともに、月1回の地域清掃活動を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
こども自然体験クラブ ミーティング, 下見, ふりかえりなど	通年(月2~3回)	73	343	北センターほか
①どろんこ田植え体験in小野郷	5月14日	1	(VO)7 こども18	北区小野郷
②夏の自然体験in雲ヶ畑	8月11日	1	(VO)9 こども14	北区雲ヶ畑
③秋の稲刈り体験in小野郷	9月3日	1	(VO)5 こども16	北区小野郷
④木にふれようn京都府立植物園	12月3日	1	(VO)8 こども11	京都府立植物園
⑤きになる暮らし体験in中川	3月5日	1	(VO)8 こども12	北区中川
里山体験プロジェクト① 大文字山ナイトハイク	7月2日	1	青少年15	大文字山
里山体験プロジェクト② 水尾の里の暮らしにふれよう	11月26日	1	青少年12	右京区水尾
地域活性ボランティア ミーティング他	通年(月2~3回)	34	153	
清掃活動	通年(第1土曜日)	9	(VO)38 共催団体20	紫明通り
イベント参加・協力	随時		(VO)38 来場者890	北センター周辺
アフタヌーン亭	通年(第1土曜日)	28	参加者171 (VO)56	
ごぶSAT ミーティング/準備など	通年(月2~3回)	26	77	
プログラム	通年(月2~3回)	28	364(参加者+VO)	北センターほか
KITARA	通年(3カ月に1回)	4	69	
サンタクロース・プロジェクト ミーティング, 準備作業, ふりかえりなど	11月3日~ 12月26日	32	133	
サンタクロース・プロジェクト 家庭訪問	12月24日	1	(VO)9 訪問家庭12, 施設1	北センター周辺
きたせいフリータイム	通年(月2~3回)	36	参加者253 (VO)37	
職業ふれあい 説明会, 研修, ふりかえりなど	5月12日~9月17日	16	108 (参加者+(VO))	北センターほか
職業ふれあい 農作業・販売	5月17日~9月10日 (週3回)	54	374 (参加者+(VO))	農作業:岩倉 販売:区役所他
西陣ひとまちもの語り 伝記作成プロジェクト取材・編集	6月3日~9月24日	31	108	北センターほか
西陣ひとまちもの語り 伝記作成プロジェクト 贈呈式	9月11日	1	(VO)9 高齢者2	
自習室	通年(ほぼ毎日)	306	3, 781	
ロビープログラム	通年(2ヶ月に1回)	14	1, 076	
北コミまつり ミーティング, 準備作業, ふりかえりなど	8月8日~3月27日	36	202 (VO+実行委員)	北センターほか
北コミまつり 当日	3月18日	1	1, 188 (来場者+出演者+Vo)	
自主活動支援事業 カフェピース(若者による居場所づくり)	通年(月2回程度)	22	130	
中3学習会	通年(毎週木曜日)	59	494(学習者+VO)	

(VO) = ボランティア

Ⅲ-2. 中京青少年活動センター

全体の動向

事務局と一体的にセンター協同事業の中核となるよう運営した。また、若者にかかわる情報の受発信拠点となること、新たな若者のニーズの把握とそれに対応した事業運営を志向した。育成委員会に青少年部会を設置しセンター運営への若者参画を促進した。施設利用者数は101,376名と前年度比-7,540名となった。アートフリマの2017春の未開催や、自習室やロビー利用、青少年グループの減少が主因である。

1. 青少年活動センター協同事業

各センターのもつ資源や機能が協同を通して、利用する人たちに有効に活用されるとともに、事業の質を向上させていくことを目指した。

(1) 青少年交流促進・多世代交流事業

①ユースシンポジウム2016「ミッケ！語るDAY～カタルがつながる、ワタシがみつかる。～」

- 4部構成で実施。講演会では、全盲の音楽事務所社長を招き、コミュニケーションについてお話をいただいた。2部(全体)、3部(テーマ別)、4部(全体ふりかえり)ともに、参加者同士が語り合える場をつくった。新規プログラムとして昼食会を位置づけ、コトバに拠らない語り(表現)の場を設けた。
- 実行委員会(15名)を組織し、青少年参画による企画運営を実現した。

②若者文化発信事業 25回記念大会LIVE-KIDS 2016

- 25回記念大会、ロームシアター京都オープニング事業として実施。これまでの軌跡を伝える掲示や映像、イベントの構成を行い、また新しい文化発信として「Performance部門」を新設した。
- プロMCになった過去スタッフや過去出演者(華～puspa～、The Opening Cloudなど)をゲストとし青少年のスタッフと出演者が共に創り上げてきたイベントであることを表現した。
- セクシュアルヘルス啓発ブースや協会PRブース、寄付ブースを設置した。(寄付97,653円)

(2) 青少年活動センター登録グループの全体調整

- 青少年育成団体の登録およびセンター間の調整、WEBページでの状報公開を行った。

2. 情報や社会の資源を活かし、若者の活動や若者にまつわるテーマを社会化する事業

①スタートアップ for Youth(個人・グループ支援)

- 個別的な活動を社会資源と結びつけながら、社会的な活動へと進めるサポートを行った。センターを活用した展覧会の企画サポートやバスケットチーム設立に向けて情報提供を行った。

②☆アンテナ(新たなテーマに対応した事業)

- 日々の関わり中で浮かび上がるテーマ、新たな社会課題など、必要とされる取り組みの事業化を行った。「家族のケアを担う子ども・若者たち子ども・若者ケアラーをテーマにした事例検討会」を実施し、当事者(若者)とそこに密接にかかわる援助職から見えるケアラーの実態について事例をもとにした検討会を行った。

3. 居場所づくりを支援する

①街中コミュニティ

- 不登校、ひきこもり、対人関係に不安があるなど、コミュニケーションに不得手を感じている青少年を対象に、グループ交流の場を提供した。子ども・若者支援室、サポステからのリファーを受け入れ、情報共有しながらそれぞれの目標に向かえる場を構成した。(居場所の段階別機能1・6)

②ロビープログラム(10代の場づくり他)

- 個人でも過ごせる空間作り、また青少年に向けた様々な情報が集まる場を作った。
- ロビーに交流用大テーブルを設置(青少年部会提案)。ワーカーが利用者と関わること、利用者同士の交流、また実習生のチャレンジの場として、定期プログラム「ロビー部」を10月より毎週木曜日に開催。交流企画や参加型の交流掲示板企画などを行った。
- 地域若者サポーターによる「赤レンガCafe」を実施。サポステ・支援室からの若者が継続して参加している。カフェで作成しているコラージュの展示を行った。

4. センター周辺地域の交流・連携・参画事業

センター機能や資源を活用してもらえるようにするとともに、センター運営について理解者が増える状態をめざし取り組んだ。

①センター周辺地域の団体・機関との連携事業

○人づくり21世紀委員会中京ネットワーク実行委員会／中京区要保護児童対策協議会に参画し、事業等による連携を行った。

＊性暴力サバイバー写真展(6/23～6/25)及びゲストトーク(6/24)を実施した。

＊中京区基本計画推進委員を推薦した。(中京で活動するボランティアの大学生2人)

②育成委員会の設置と運営

○9月26日に総会を開催した。日頃から利用している青少年の参画を目的とした「青少年部会」が承認された。その後青少年部会では、ロビーのレイアウト変更案や4月交流会の実施などの協議がなされ、実施された。

③「京都アートフリーマーケット」(共催事業)

○若手造形家・活動者のための特別会場を設置し、作品の展示販売に協力した。

○開催に併せて、青少年グループや育成登録団体、関係団体が出展する「ユースフリマ(自主事業)」を開催。青少年によるアコースティックライブやワークショップなどを行った。

5. 担い手育成事業

ユースサービスを通じて、ユースワークを経験した若者が育つことを目指し取り組んだ。

①インターンや職業体験などの受入れ

○青少年活動センターでの業務やユースワークについて学びを深める機会として合計11名の受け入れを行った。(コンソーシアム京都3名、立命館大学5名、京都女子大学1名インターン・実習として参加。光華中学校から2名が職場体験として参加。)

②ユースワーカー養成講習会

○基礎的な養成講習会を年2回開催。さまざまな現場を持つ多方面からの参加があり、ユースワークの理解や、現場実践につながる学びを提供することができた。運営面では、ワーカーが講師として講習を行った。

③ボランティア育成事業

○LIVE KIDSやユースシンポジウム、中3学習会などの事業において、青少年がボランティアスタッフとして主体的に活動する機会を提供し、育成を行った。

6. 利用促進と市民的認知の拡大につなげる情報発信と広報

①自習室・フリータイム事業

○空き施設を開放しダンスや演劇などの自主活動や自習を応援した。

②トレーニングジムガイダンス

○トレーニングジム利用希望者を対象に、ジムの安全利用を目的としたガイダンスを行った。(月2回)ガイダンスの実技指導はボランティアスタッフ(登録6人)の協力を得て実施した。

③教室事業(中京センター自主事業)

○ダンス・ヨガの2教室(各9～10回、年間4クール)を実施。両教室合わせて93名参加。社会人の若者の参加が多く、スポーツに親しむだけでなく講師とのコミュニケーションを通して高い満足感が得られている。

④学校・団体訪問プロジェクト

○年間を通して8校訪問を行い、センターや事業の情報提供、ニーズ把握、顔の見える関係づくりを行った。

⑤利用促進事業

○稼働率の低い音楽スタジオほか、利用稼働率を上げる取組み(ヒアリングや広報)を行った。

7. 相談・支援にとりくむ

①相談事業(支援機関連携)

○若者個人の他、保護者からの相談が一定数あった。件数としては前年度比66件(-24.4%)マイナスであり「活動内容」についての減少が目立った。相談窓口としての機能周知、ロビープログラム内で利用者との関係性づくりを強化する等の工夫を行った。

②就労支援事業

○サポステより紹介された若者1名のチャレンジ体験(就労体験)を中京青少年活動センターで受け入れた。

8. 中3学習支援事業(中3学習会「かけはし」)

立地を活かして中京区以外の地域(上京, 右京, 東山, 洛西)からも学習者を受け入れ, 中高生17名が登録した。ボランティア32名登録。運営は学習支援団体Apolonの協力のもと行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	備考／実施場所等
ユースシンポジウム	12月10日(土)	1	155(407)	実行委員会は7月より稼働
ライブキッズ	8月21日(日) スタッフは12月から活動	1	(1500) 出演者169	スタッフ54名
スタートアップfor youth	通年	4	4	参加者=相談者
街中コミュニティ	通年/毎月第2・4金曜日	24	21(273)	ボランティア1名
ロビープログラム	通年	18	(423)	
子ども・若者ケアラーをテーマにした事例検討会	3月18日(土)	1	26	
赤レンガCafe	毎月第3土曜	8	(130)	
ユースフリーマーケット	9月17日(土)~19日(月) 3月18日(土), 3月19日(日)	2	(997)	
ユースワーカー養成講習会	9月11日(土), 12日(日) 3月11日(土), 12日(日)	2	33	
自習室	通年	606	(1536)	
フリータイム	通年	98	(103)	
トレーニングジムガイダンス	通年/第2日曜・第4土曜	25	451 うち青少年354	
教室事業	年間4クール/ 月曜日ダンス・木曜日ヨガ	74	93(453)	
性暴力サバイバー写真展&トーク	6月23日~25日, トーク6/24	1	81	
中3学習会「かけはし」	年間	70	17(1,380)	内ボランティア 881名

Ⅲ-3. 東山青少年活動センター

全体の動向

利用人数は66,135名で、前年度よりも1,663名の増となった。前年度末に居場所機能の充実を目的にロビーをリニューアルし、ロビー空間での新たな取り組みを進めた。また、青少年がアート(ものづくり、表現活動等)を主軸とした、発表・発信ができる機会を提供し、広く市民が参加できるイベントとして「ワカモノ文化市」を開催し、活動センターの認知度の向上を図った。

1. センターテーマ「創造表現活動事業」

(1) 創造体験事業

① 演劇ビギナーズユニット(京都舞台芸術協会との共催事業)

○初心者を対象とした演劇の集団創作プログラム。大学生～社会人までの参加者が、演劇の創作、修了公演を実施した。他者との共同作業を通した悩みや葛藤を抱えながらも、参加者それぞれがコミュニケーションスキルや社会的な行動様式を身につけたり、様々な価値観と出会うことで他者を受け入れる体験、また自分が受け入れられる体験や、価値観の幅を広げる体験をした。

② ダンススタディーズ1

- 身体を使った自己表現に興味のある青少年を対象としたコンテンポラリーダンサーのナビゲーターによる集団創作プログラム。ワークショップを通して、初めて出会うメンバーとともに作品創作の全般を通して、自己の身体や自己と向き合う体験や、メンバーとの様々な合意形成の体験を経て、人と関わる力を高め、メンバー同士がお互いのことを知り合い、そうした体験を最終の作品創りにつなげ、修了公演を実施した。
- これまでのダンスを手法とした事業の22年間の活動報告や、青少年育成にとっての事業分析等をまとめた冊子を発行した。

(2) 余暇活動支援事業

① 東山アートスペース(2コース)

○知的障がいのある青少年を対象に、余暇充実や、活動を通した交流から生まれる成長の機会を目的としたアトリエ活動の場を提供した。運営には、美術系ナビゲーターとボランティアの協力を得て、技術向上だけでなく「若者同士が同じ空間を楽しむ活動」として実施した。さらに、外部イベントへ作品提供も行き、参加者の創作意欲や活動のPRにつながる機会となった。

② からだではなそう(2グループ)

- 知的障がいのある青少年を対象に、身体を使った表現を通して、他者との関係性の築き方やコミュニケーションを取る楽しさを探れる機会を提供した。運営には、ダンサー・俳優のナビゲーターとボランティアの協力を得て実施した。
- 事業発信として、より多くの方に事業の魅力を経験してもらうため、外部イベントでナビゲーターによる事業PR、『ワカモノ文化市』で市民対象のワークショップを行った。

(3) 若者文化発信事業

① ステージサポートプラン(20グループをサポート/YU'Zは、のべ36グループが利用)

- 日頃の活動成果を発表する場を提供した。発表・公演に必要な一定期間、創造活動室を提供し、舞台・照明・音響関係のテクニカルサポートやグループ運営についての相談等の支援を行った。YU'Zでは、公演の決まったグループに練習場所の提供や、公演や活動に関する情報提供、相談等を行った。
- 創活番ボランティアの協力を得て、京都市中学校教育研究会演劇部会、京都府高等学校演劇連盟(中部支部)の合同公演サポートを行ったほか、スタッフワーク講習会を開催した。

② 自主活動企画支援事業「夢のスタートライン」(10グループ/18企画をサポート)

○創造表現やものづくりを広めたい青少年の自主的・オープンな活動発表やイベントづくりの機会を提供すると共に運営面での相談や、アドバイス、情報提供等を行った。また、運営のサポートを通して次のステップに進むための気づきや力が身に付く機会の提供や、日々の活動に関するだけでなく、個々の悩みについても相談ができる関係づくりを行った。

2. 居場所づくり支援事業

(1) 居場所づくり支援事業

①ロビープログラム「Hus(ヒュース)」

- 主に地元中学生の、放課後の余暇を過ごす場としてセンターへ気軽にきてもらえるプログラムを行った。また、ロビーの一角を使い、寄付で持ち寄った本で図書コーナー「まちライブラリー」を設けた。まちライブラリーに登録し、利用者同士の感想をシェアできる仕組みを作り、主に課題を抱えた中高生に対して、学校や家以外の場所として、安心して過ごせる場として活用した。

3. 地域交流・地域連携・地域参画を促進する事業

(1) 地域交流・地域連携・地域参画事業

①地域(団体/グループ)・NPO 等との連携プログラム(共催事業)

- 人づくり21世紀委員会、スマイルミュージックフェスティバル実行委員会、要保護児童対策地域協議会、京都華頂大学学園祭等への参加と参画により、連携を深めた。

②ワカモノ文化市

- 青少年の自主活動の発信、体験を通じて、市民の若者文化への理解を広げる機会を提供した。青少年がイベントに向けた企画・運営を行うことで、自らの活動を客観視し、他者へ伝達する機会を提供した。

4. 担い手を育成する

(1) 担い手育成事業

①センター事業における各ボランティアの育成と支援

- 創活番ボランティアによるスタッフワークを実施し、中学生の時に学校連携プログラムでサポートを受けた新高校生が、ボランティアスタッフに登録する等、参加者から担い手への循環が継続的なものとなってきている。

②インターンシップ受け入れ

- 知的障がいのある青少年対象の余暇支援事業や創造体験事業のダンススタディーズ1、ロビーでの中高生の居場所事業において、立命館大学院ユースワーカー養成実習や京都女子大学の社会教育実習生を受け入れ、青少年参加者との関わりによる変化や成長について、主体的に理解を深める機会となった。

5. 利用促進・情報発信・広報事業への取り組み

(1) 利用促進・情報発信・広報事業

①情報発信および広報活動の充実

- 新しい利用者の獲得や利用促進、センターのPR・アウトリーチ活動としてホームページやSNS、ブログを通して、情報発信や活動報告だけでなく、直接来館していない層とのコミュニケーションを図った。また、東山区内での認知度向上を目指し、ニュースレターを作成し、事業情報やセンターの近況報告など、自治会に依頼し、近隣学区の全戸配布への情報発信を行った。さらに、利用促進として、創造活動室・レッススタジオをダンスの練習ができる空間「フリータイム」を設定した。

②シェアアトリエ「ヒガシヤマDEものづくり」

- センターの入口事業として週2回のシェアアトリエを開催するほか、若者サポーターと共に運営し、道具の設置・充実、消耗品の販売等のサービスの向上や利用者のニーズに応じた空間作りを行った。

③「おはようおけいこ」の実施(自主事業)

- 広く市民を対象に、空き施設を活用した教室を実施し多世代交流を図り、センターの認知・理解向上に努めた。講師にはセンターの理解を深め協力者になってもらえる関係性を築き、相談・支援機関からのリファーマ対応も行い、課題のある青少年のリファーマ等の受け皿として実施できた。

6. 相談支援に取り組む

(1) 相談・情報提供事業

- 事業参加者がグループ体験を通じた人間関係での悩みや葛藤、日常生活での悩みなど、ワーカーとの関係性をもとに相談を受け、自分の力で解決し乗り越えていけるよう情報提供や支援を行った。
- 関係団体からのリファーマでは、活動機会の提供と合わせて受け入れ、継続的な支援を行った。

(2) 京都若者サポートステーションとの共催事業

①「弟子入りのススメ」

○センターで実施するものづくりプログラム講師からアシスタントとして技術を学び、自身も作品を制作し、販売までの体験を行った。また、東山区を中心としたものづくりに関連する企業でのチャレンジ体験実施に向けて、まちづくりアドバイザーの協力を得て業界調査、ニーズ調査を行った。

②「演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク」

○無業の状態が続く若者を対象に、コミュニケーションの仕方を学びながら、自分自身を振り返り、気づきを得られる機会の提供を目的として、ストレッチや発声練習、インプロビゼーション(即興演劇)の手法を用いたワークショップを実施した。毎回、参加者とのふりかえりの機会を設け、その経験を共有・実感することができるようなサポートを行った。

7. 中3学習支援事業

(1) 東山中3学習会

○東山福祉事務所からの要望もあり、地域で学習支援活動等を行っている「子どもの居場所かもかも」に運営への協力を得て、7月より学習会を開始した。ひとり親世帯からつながるケースが多く、東山区の特徴を活かして運営している。

8. 運営協力会

○総会に合わせて、「薬物」をテーマに東山警察署生活安全課長を講師とするミニセミナーを実施し、現在の青少年を取り巻く支援に関する理解を深める機会づくりを行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	備考／実施場所等
演劇ビギナーズユニット	5月～9月	151	18(2, 778)	自主練習・公演入場者含む
ダンススタディーズ1	11月～3月	47	9(507)	自主練習・公演入場者含む
東山アートスペース	5月～9月／10月～2月	34	64(615)	ボランティア数含む
からだではなそう	5月～9月／10月～2月	22	164	ボランティア数含む
FeelArt	3月18日	1	8	
ステージサポートプラン	通年	139	6, 463	ボランティア数含む
ステージサポートプランYU'Z	通年	153	1, 509	
ロビープログラム	通年	19	330	ボランティア数含む
ヒガシヤマDEものづくり	通年(週2回)	91	343	
演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク	年3回 (7月, 10・11月, 1・2月)	14	121	
ロビーギャラリー	通年	297	15, 142	同時期複数開催含む
自習室	通年	152	424	
焼成釜一般開放	通年(月1回)	12	69	
ワカモノ文化市	3月18日	1	380	ボランティア数含む
おはようおけいこ	1月～3月	76	208	
共催事業	12月～3月	2	355	
弟子入りのすすめ。	1月～3月	42	1(42)	
中3学習支援	7月～3月	34	9(177)	ボランティア(18名)含む
フリータイム	6月～3月	24	56	

Ⅲ-4. 山科青少年活動センター事業報告

全体の動向

地域とともに青少年の育ちを支えるために、「ソーシャル・ハブ」事業では、お試し子ども食堂の運営、地域での開設に向けたコーディネートを進めた。「べる」事業でも地域の中での活動機会と通貨利用機会を得るための仕組みを構築した。青少年の育ちについて、社会の関心の高まりもあって、子どもの貧困問題の動向、センターの取り組みの講演依頼など、情報発信の機会も多く得られた。

1. 地域交流・連携・協働事業

(1) 地域協働事業

① やませい通貨「べる」

- 地域団体から活動依頼を受けられる体制としてパートナー登録制度を構築した。
- センター外部の活動機会として、主催団体などから依頼を受け、地域イベントで活動することができた。

② やませい“あえる”フェスタ(「ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科」への参画)

- 青少年によるステージ運営をダンスでの利用者に依頼し、ダンスバトルを実施した。
- 「べる」の活動機会として、「ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科」の運営を担った。

③ ☆ソーシャル・ハブ

- 子ども食堂に携わる地域資源の掘り起こしのために、センターを利用した「お試し子ども食堂」を10回実施した。
- 地域の中での食堂展開のために、運営希望者と食材や場所の提供希望者のコーディネートを行った。
- 子ども食堂をはじめとする地域の中での子ども・若者を支える仕組みを広めるために、関心のある地域住民を対象にした「大人カフェ」を2回実施した。

(2) 地域参画事業

① 企画持ち込みカフェ D・I・Y!

- 青少年によるスイーツカフェや、国際理解のためのイベントの企画運営をサポートした。

2. 居場所づくり支援事業

(1) カフェ事業

① やませい直営カフェ

- 放課後や休日の余暇充実のためのカフェ「Mountain Blue」を実施し、「べる」の利用の受け皿となった。

(2) 居場所事業

① ☆「Yico(わいこ)」

- 月2回、単発で参加できるスポーツ、園芸、工作などのプログラムを実施した。あまり馴染みのないスポーツを試したり、トーナメント試合で他者と交流するなど、普段の利用とは少し違う時間の過ごし方を提供する機会となった。
- ゲスト講師を招いた「スペシャルYico」ではダブルダッチ教室、アレクサンダーテクニークを活用した身体の動かし方ワークショップを実施した。

② ロビーワーク

- ロビーで関わる中高生世代の青少年から、進学・就職・対人関係・心身の健康など、幅広いカテゴリーでの相談件数が増加した。

③ 中高生タイム

- 中高生のセンター利用が多い土・日・祝、および学休期間中の午後の時間帯に、中高生がスポーツルームを利用できる時間帯を設定し、中高生の施設利用が増した。

3. 担い手養成事業

(1) 担い手養成事業

① ☆やましな未来プロジェクト

- 区社協主催の福祉ボランティア体験事業に参加した中高生の希望者に、センターでのボランティア活動を案内し、夏休み期間に公園で子どもと遊ぶプログラムに中学生が参加した。
- 地域清掃をしながら子どもにバルーンを配る「まちかどサンタ」を実施した。

② ☆主役型インターンシップ

- びわこ成蹊スポーツ大学、立命館大学大学院から受け入れを行った。インターン生による主体的な課題設定や実習計画策定を促し、センター内外でプログラムの企画運営を行った。

4. 利用促進と市民的認知の拡大につなげる情報発信と広報

(1) 利用促進事業

① 共催型地域協働事業

- 「たちばな倶楽部」「めくるめく紙芝居」「山科区母子寡婦福祉会」「京都中央地区BBS会」との共催事業を実施し、活動をサポートした。

② 自習室の開設

- 自習室の積極的な広報（「やませいだより」に掲載など）の実施をし、自習環境の確保に難しさを感じる青少年を中心に、センター利用のきっかけを作った。また、受験シーズンには、あいている部屋を活用し、自習室利用を促進した。
- ☆不定期で「自習室カフェ」をオープンし、自習室の利用のみに留まりがちな利用者との関係づくりを通して、相談や他事業参加へとつなげた。

(2) 情報発信・広報

① パンフレットおよびニュースレターの配布

- 中学校の協力により、山科区内の新中学1年生全員にパンフレットを配布していただいた。また年度内で計6回ニュースレターを発行し、区内および周辺の中学校・高校で教室内掲示を依頼した。
- ☆新たな情報発信の媒体として、SNS「LINE@」を活用し、中高生世代に情報が届きやすい仕組みを作った。

5. 相談・支援事業

(1) 学習支援事業

① やましな中3勉強会(中3学習会)

- 地域福祉課および山科区福祉事務所と連携して、生活保護世帯、生活困窮者世帯、ひとり親世帯の中学生を対象に、高校進学のための学習支援を実施した。

② 勸修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト(自主事業)

- 中学校、地域住民、関係団体が共同で運営する「地域福祉型学習支援」のモデル事業として実施した。
- 地域の関係者による自主的運営に向けて、地域サポーターが運営を担うよう青少年活動センターとしてサポートした。休憩タイムの導入や、地域サポーターを対象にした研修会を実施した。

(2) セクシュアルヘルス事業(自主事業)

- 青少年の恋愛観について意見を募る参加型掲示と、連動企画として恋愛に関する相談ができるカフェを開催した。

(3) 相談・情報提供

- センター事業(自習室提供やロビー事業やカフェ事業等)から相談への接続を意識して取り組んだ。

(4) 就労支援事業

① 職業ふれあい事業「アジプロやましな」(京都わかものサポートステーション連携事業)

- 事前研修でビジネスマナーの基礎を学んだ後、電話対応や窓口業務などの就労体験を行った。また、広報物の改善策について協議する機会も持つことで、事務だけでなく、チームでの作業に対する不安も軽減し、より積極的な就労活動につながった。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	備考／実施場所等
地域協働事業				
やませい通貨「べる」	6/25～3/3	23	(55)	
ソーシャル・ハブ(子ども食堂)	5/28～3/26	27	(334)	
ソーシャル・ハブ(大人カフェ)	10/23, 3/11	2	(57)	
やませい“あえる”フェスタ	11/6	1	(2189)	
D・I・Yカフェ	7/23, 9/24, 12/11	3	(78)	
居場所づくり事業				
やませい直営カフェ	4/12～3/28	53	(463)	
Yico	5/21～3/25	25	(276)	
中高生タイム	4/1～3/31	138	(1365)	
担い手養成事業				
やましな未来プロジェクト	5/29～12/25	9	(574)	
主役型インターンシップ	8/13～2/12	13	2(32)	
利用促進事業				
自習室	4/1～3/31	305	(3212)	
自習室カフェ	4/2～3/26	68	69	
相談支援事業				
やましな中3勉強会	4/8～3/31	53	(408)	
勸修中学校区こどもの学び サポートプロジェクト	4/16～3/18	49	(1190)	京都市立勸修中学校
アジプロやましな	2/14～3/7	6	4(38)	
セクシャルヘルス事業	3/4～16	2	(264)	

Ⅲ-5. 下京青少年活動センター

全体の動向

2015(平成27)年4月に現在地に移転後2年が経過した。交通のアクセスのよさや施設の特徴を踏まえ、広報(特にウェブ検索からの利用)を強化することで、利用者増・認知度の向上を目指した。初年度は6万人だった利用者数が、2年目は9万人へと大幅に増加し、施設稼働率においても全ての部屋で増加(平均13.4%増)した。増加する利用者に対応するべく、施設メンテナンスをこまめに行っているが、全ての改修には至っていない。地域との関わりとして、建物周囲の清掃や、市民ぐるみで青少年を育成しようという機運を高めるために、関係する機関とのネットワークづくりにも着手した。

1. スポーツ・レクリエーション事業

①しもせい運動部

○これまで人気の高かった体育施設を提供するため、本館3Fにある下京地域体育館の借用準備を進めた。

②トレーニングルーム・ガイダンス

○「ジムアドバイザー」による協力体制づくりを行い、トレーニングルームを初めて利用する人を対象に、第1・3木曜日、第5月曜日午後7時半から、ガイダンスを実施。トレーニングルームの利用者の口コミなどにより、参加者が293名と、昨年度よりもさらに増加した。

○青少年が普段の生活で出会う機会のない年代とアドバイザーを通して、出会う機会となっている。トレーニングルーム利用だけでなく、施設の利用やボランティア活動に繋がるきっかけになっている。

③トレーニングルーム利用活性化事業

○高校生年代を対象に、平日の時間帯を限定してトレーナーを配置し(朝、昼、夜の3つから選択)、トレーニングルームの利用促進を図った。

○チラシ配布を効果的にできず、登録は少なかったが、友達からの口コミで登録し、継続して部活帰りに利用する高校生が増えた。

2. 居場所づくり支援事業

①しもせい道の駅

○多様な青少年が共存しながら安心して過ごせる場づくり(ロビープログラム)として、「カフェ」「アンケート企画」「ボランティア交流会」「大掃除」を実施した。

○カフェでは、あらかじめテーマ(話題)を設定し、自分の意見を他者に伝える積極性を培った。少人数ながらも、継続的に参加する者も徐々にみられるようになってきた。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①ユースまちづくりスタッフ「チーム街スタ」

○青少年の社会参加と地域交流を図ることをねらいとし、若者目線で、“まちづくり”を行うことを目標に地域に出向き、地域の意見を取り入れながら、商店街で行うイベントの企画立案や、祭り、イベントに参加した。

②中3学習支援事業「らくさいスコール」

○洛西福祉事務所、京都経済短期大学、青少年の健全育成を考えるフォーラムと連携し、洛西地域で毎週1回の学習会を運営した。

○中退予防の場として、高校に進学した学習会参加者も継続して参加できるようにし、学習支援や高校生活の悩みを相談できる場となった。

③☆中3学習支援事業「下京学習会」

○11月から開始した。下京福祉事務所と連携し、毎週1回学習会を運営した。

4. 担い手育成に関わる事業

①しもせいチャレンジ☆キッズ

- 「青少年ボランティアスタッフと子どもがスポーツ・レクリエーションを通して継続的に関わることで、互いに成長する」という目標の下、年間4回のプログラムと、ボランティア同士の交流を深めるための運動会を2回、ボランティア活動について考える研修の場を2回実施した。
- 青少年ボランティアは38名、子ども46名の登録があり、プログラムの実施を通して成長がみられた。

②プラン・ドゥ(自主活動促進の事業)

- 「小学校対抗ドッチボール大会」(下京区少年補導委員会)、「下京区ふれ愛まつり」(下京区役所)、「光徳学区町別対抗ドッチボール大会」(光徳学区少年補導委員会)からの依頼を受けスタッフを派遣し、センター近隣における活動の幅が広がった。
- 下京区「人づくり」ネットワーク実行委員会の「下京つながりフェスタ」、崇仁発信実行委員会の「崇仁マガジン〜ひと・まち・れきし〜」への協力と会場提供を行った。
- 青少年を対象としたスポーツ・レクリエーションの機会を提供する活動である、SWISH ダンスファクトリーのダンスレッスン「Swish Kid's」、バレーボールリーグ「Sリーグ」(登録72チーム)、「レクリエーション・インストラクター養成講習会」を共催した。

5. 利用促進と市民認知の拡大につなげる情報発信と広報

①しもせい大学「学びほぐし学部」

- 参加者に「学びほぐし」が生じるよう、8月は「哲学カフェ」、9月は「映画上映会」、12月は「研修会」を実施した。1月からは3か月を1クールとし、1月は「お金」、2月は「食」に関連した内容で開催。3月はまとめとして「生活」をテーマに哲学カフェを行った。
- 中学生から一般の幅広い世代の参加があり、中学生年代にとっては家族以外の大人と交流できる機会となった。「当たり前は絶対ではない」、「家族も他人」など、新たな考えを獲得できた。

②しもせい大学「しもせいフェスタ」

- センター利用者に活動発表の場を提供し、日ごろの練習の成果を発揮できるステージ発表やボランティア、育成団体による活動紹介ブースを企画した。

③ユースサポーター拡大プロジェクト

- センター案内パンフレットの作成を行った。

④自習室

- センター開館時に、青少年が集中して勉強できるよう、自習室を設けた。中高生の利用は少なく、大学生や専門学校生、社会人の利用が多かった。

6. 相談・支援の取組み(就労支援を含む)

①あたまと身体でじっかんするプログラムⅡ(アジプロ下京)

- 若者サポートステーションとの調整がつかず、実施に至らなかった。

②相談事業

- 青少年に情報提供を行い、相談を受付け、個別的な支援を行った。
- ロビープログラムの一環として、「何でも質問BOX」を設置した。

7. 少年非行の防止・軽減に向けた取組み

①「ユースサポーターネットワーク」

- 警察関係者を講師に招き、薬物についての勉強会を実施した。青少年活動センター職員、教育関係者、福祉関係者、地域団体関係者が参加し、様々な立場から意見交換をすることができた。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者/のべ数	備考/実施場所等
スポーツ・レクリエーション事業				
トレーニングルームガイドンス	4月～3月	26	293	毎月第1木曜・第3木曜・第5月曜
トレーニングルーム利用活性化事業	4月～3月	172	16(305)	①体力増強コース:毎週月曜・木曜 ②筋力中心コース:毎週火曜・金曜
居場所づくり支援事業				
しもせい道の駅/アンケート企画	①5月 ②6月 ③2月	2	42	①京都のいいところ ②選挙関連, ③イタイ恋愛話について (セクシャルヘルス関連事業)
しもせい道の駅/カフェ	12月～3月	8	(30)	毎月1・3木曜日
しもせい道の駅/ボランティア交流会	12/27	1	(23)	
しもせい道の駅/大掃除	12/24, 26, 27	3	(77)	
地域交流・連携・参画に関わる事業				
ユース街づくりスタッフ 「チーム街スタ」 ミーティング	4月～3月	62	(284)	毎週月曜日+随時
「チーム街スタ」 イベント参加	4月～1月	8	ボラ18 (1, 254)	松尾大社, 七条商店街 他 ※ブース来場者含む
中3学習支援事業「らくさいスコール」	4月～3月	49	ボラ17(875)	毎週金曜日。※学習者含む。
中3学習支援事業「下京学習会」	11月～3月	20	ボラ5(115)	毎週月曜日。※学習者含む。
担い手育成に関わる事業				
しもせいチャレンジ☆キッズ	4月～3月	73	ボラ38(485)	※参加者含む
プラン・ドゥ/ボランティア派遣	①6/19 ②11/13 ③11/27	3	ボラ13 (838)	①光徳学区町対抗ドッジボール大会 ②下京区ふれ愛まつり ③小学校対抗ドッジボール大会
プラン・ドゥ/運営協力	①4/24 ②2/26	2	520	①崇仁マガジン～ひと・まち・れきし～ ②下京つながりフェスタ
プラン・ドゥ/Swish Kid's(共催)	4月～3月	47	(118)	SWISHダンスファクトリー主催
プラン・ドゥ/Sリーグ(共催)	5月～2月	26	(7, 352)	Sリーグ運営委員会主催
プラン・ドゥ/レクリエーション・インストラクター養成講習会(共催)	6月～10月	5	(98)	京都府レクリエーション協会主催
利用促進・情報発信				
しもせい大学/学びほぐし学部	8月～3月	6	(31)	①哲学カフェ ②映画上映会 ③研修会 ④お金について ⑤食について ⑥生活について
しもせい大学/しもせいフェスタ	10/1	1	(511)	
自習室	通年	307	(1, 528)	
相談・支援				
ロビーでの情報提供	4月～3月		(249)	通年の取組み。「何でも質問BOX」
少年非行の防止・軽減に向けた取組				
青少年支援ネットワーク	3/27	1	13	ユースサポーターネットワーク

Ⅲ-6. 南青少年活動センター

全体の動向として

近隣の中高校生のロビー利用が増加し、日々の関わりによる関係づくりに重きを置いた事業展開を行った。とくに、かれらが気軽に居ることができ、必要に応じて手助けが得られる「たまり場」作りを中心に展開した。また、中高生の暮らす地元について、そしてかれらを取り巻く環境について学ぶ機会や、南区で活動する新たな団体との協同事業を行うなどの取り組みを行った。

1. 居場所づくり事業

(1) 居場所づくり事業

① たまり場Project

- 利用者が多くてもそれぞれの居場所を確保できるようロビーに個室を設けるなど、ニーズに合わせたロビースペースを作った。
- 実習生やインターン生を含め、ロビープログラムをボランティアと共に運営した。クリスマスイベント、受験前勉強会などロビー利用者が気軽に参加できる取り組みをおこなった。

② ロビー喫茶

- 週2回喫茶コーナーを活用し、大学生年代のボランティアが中心となり喫茶運営を行った。近隣中高生から進路の事や学校の事などの話をして過ごす姿が見られた。

(2) 余暇支援事業

① 自習室・フリータイム

- 毎日2時間の卓球やダンスのできるフリータイムや、月に1回の「卓球大会」を実施し、卓球を通じた青少年同士の交流がみられた。
- 自習室は、長期休暇にあわせて「スタンプカード」を導入。スタンプが貯まると飲み物などを提供するプログラムをおこない、利用者との関係づくりのきっかけとなったものの、全体の利用者増には繋がらなかった。

② 20代話せるプログラム「なカマ(仲間)メン」

- 食事の準備を共に行うことや、同じ食卓を囲むことを通して青少年が交流できる場を目指した。継続的な関わりの中で初めて同士でも緩やかな交流の場となった。
- 継続参加者を対象にした、「ベテランの会」を実施。企画から運営までを一貫して参加者と共に行った。

(3) 若者の孤立を防ぐ場づくり

① 10代20代ママパパ応援プログラム「フェミリーマルシェ」「ママ oide カフェ」

- 子育て支援団体「えむすまいる」と共に、若年層の子育て世代に向けた事業を実施したが、対象層の参加が少なく、広報の方法など課題を残すこととなった。

② 「Under20」

- 南区の歴史や関係機関の活動について学び、ネットワーク強化を図る「地域プロフィールを知る会」を2回実施した。青少年の暮らす地域の生活環境を知ること、センターが担うべき役割などを検討する機会となった。

2. チャレンジの場づくりと機会の提供を行う

(1) グループの力を活用した事業

① ボランティア体験活動「VoM's」(ぼむず)

- 月1回の清掃活動に加え、近隣学区の夏まつりなど地域行事への参加を行い、参加者同士がゆるやかに交流し、そして地域と繋がる事ができた。

② イベント部

- 参加者が集まらず中止となった。

③ グループ体験サークル「ひだまり部」「こんにちはおけいこ@みなみ」

- 他者との関わりに困難を感じている女性を対象に、園芸活動等グループを体験する活動を月に2回実施した。
- オープン参加型企画として、「こんにちはおけいこ@みなみ」を1回実施。参加メンバーで企画運営をおこない、それぞれが役割を担って運営することができた。

④ 就労体験事業-「アジプロ」(若者サポートステーション共同事業)

- 喫茶運営を通じた就労体験事業を年間3クール実施した。参加者への支援の方向性がずれないように、活動中、振り返りも含めてサポートステーションと連絡を密に行い、運営する事ができた。

3. 参加, 参画, ネットワークが広がる場づくりと機会の提供を行う

①青少年共催事業 「MINAMI×(かける)」「いべさぼ」

- 大学生年代の若者がテニス教室の講師としてプログラムに参加した。
- 青少年グループ、育成団体等と共催事業を実施し、必要なサポートを行った。
- 区役所と協同して、ふれあいカフェ「みなみなみなみ」を実施し、多くの市民の方にセンターへ足を運んでもらう機会となった。

②オープンカフェ事業「みんなの喫茶@みなみ」

- 京都 ARU によるパン販売「あるあるベーカリー」や、ほっとハウスによる「ほっとハウスカフェ」などを実施した。

③M×M フェスタ

- センターで活動する青少年を対象にした、パフォーマンスイベント。企画運営は青少年ボランティアが担い、当日の運営だけでなく、新たな広報先を模索し、実際に自ら出向いて声かけをおこなうなど、準備段階から自主的な活動を促すことができた。

4. 地域の交流・連携・参加を進める

①地域交流事業

- 地域一斉清掃、夏まつり、ふれあいまつりに青少年ボランティア共に参加した。

②地域関係機関・団体連携

- 地域団体、南区内企業へ参加をよびかけ育成委員会を組織し、総会のほかに、ニュースレターを送付するなど、若者支援に関心をもってもらうよう働きかけた。

③支援者連携事業

- 市内外問わず、若者支援に関心を持つ学生、民間団体などの見学を受け入れ、センター紹介に留まらず若者支援について意見交換をする機会を持つことができた。
- 児童館や学校と必要に応じて協議の場をもち、地域の若者に対して機関を越えた支援の在り方を検討した。

5. 担い手を育成する

①ボランティア育成事業

- 事業を安定的に運営できる数のボランティア参加があり、活動の中で振り返りなど丁寧におこなう事ができた。しかし、ボランティア全体の研修を開催できず、またセンター内や協会でのボランティア研修への積極的な参加を促すまでには至らなかった。

②インターンシップ実習生の受け入れ

- 京都女子大学、立命館大学、立命館大学大学院からインターンシップ生、実習生の受け入れを行った。

6. 利用促進と市民的認知の拡大につなげる情報発信と広報を進める

(1) 近隣中学・高校の訪問, アウトリーチの実施

①中学校, 高校訪問

- 近隣中学5校、高校3校を訪問し、広報誌の協力依頼などおこなった。
- 南区内5校のふれあいトークに参加。顔の見える関係性づくりができた。

②高校アウトリーチ

- 洛陽工業高校へのアウトリーチをおこなった。3年生を中心とした利用が多く、進路に向けた相談や学校内の人間関係など生徒同士で話しあうなど、穏やかな場を運営する事ができた。
- アウトリーチを通じてセンターを利用し始めた生徒もおり、学校内部のみで留まる事のない横断的な関わりを持つことができた。

(2) 利用促進につなげる広報の実施

①WEB ツールを用いた広報

- 昨年に引き続き、ブログ、フェイスブック、ツイッターと各種SNSツールを使い分けた広報に加えて、新しい情報を届けられるようHPの定期的な更新も行った。

②ニュースレター等の広報物の発行

- 中高生年代に向けた「みなみだより」、地域住民や近隣の関係機関にセンターの日常を伝える「フォトレター」を昨年度に続き配布した。また、センターリーフレット作成を青少年と共に検討を重ねたが、作成には至らなかった。

③フリーマーケット in みなみ(自主)

○一般市民による出店の他、近隣店舗、関係団体、青少年団体などの出店によるフリーマーケットを年3回開催した。3度目のフリーマーケットでは、青少年によるステージイベントを開催したことで準備、運営に多くの青少年の参加があった。

7. 相談・支援に取り組む

(1) 若者の課題の軽減に取り組む事業

①スモールステップ

○他者と関わりを苦手とする若者への個別対応を行い、2名の参加があった。

②学習支援事業「みなみ中3学習会」

○参加者がより良い環境の中で学習が行えるよう、必要に応じてかれらの様子を福祉事務所と共有した。

○当日の運営や日々の振り返りなど含めて、学習ボランティアが中心となり行うことができた。

③☆「ユース info みなみ」

○未来支援委員会の助成金事業をうけて、「恋愛カフェ」や「障がいのある若者支援者のためのセミナー」などセクシャルヘルスに関連した取り組みを行った。

④相談事業

○利用者からの相談は日々の業務の中で一定数あったものの、前年度に比べ件数は落ち込んだ。

○福祉事務所や子ども支援センターなどの関係機関、そして市民からの相談もあり、若者の施設であるという認知が少しずつ上がってきているように実感している。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者のべ数	備考／実施場所等
たまり場project	通年・随時	61	(686)	
ロビー喫茶	毎週月・木	164	(954)	ミーティング(123名・69回)含む
自習室	通年・ほぼ毎日	322	(1137)	
フリータイム	通年・ほぼ毎日	314	(4024)	
20代話せるプログラム(なカマメシ)	通年(毎月第2金曜日 他)	10	(99)	
10代ママパパ応援プログラム	12月～3月	4	(104)	
under20	9月～2月	4	13(22)	ボランティア8名含む
VoM's	通年(毎月第4土曜日 他)	24	(1105)	ボランティア16名含む
グループ体験サークル「ひだまり部」	通年・毎月第1・3土曜日	22	4(64)	
就労体験事業「アジプロ」	年間3クール			
	5～6月, 10～11月, 2～3月		12(377)	喫茶利用者含む
青少年共催事業(ARU)	毎月1回(第2火曜日)	12	(180)	
青少年共催事業	6/20, 8/4, 8/5, 11/6, 12/20, 3/20～3/28	6	(655)	
オープンカフェ事業	7/9, 8/20, 12/6, 12/12, 1/16, 2/4, 2/14, 3/14	8	(297)	
M×Mフェスタ	2月～3月	6	6(351)	
ボランティア育成	通年	23	(56)	大学ボランティア説明会含む
インターン実習生受け入れ	通年(希望に応じ受け入れ)	49	8(66)	
学習支援プログラム	通年(毎週木曜日)	55	28(328)	
高校訪問	通年(基本毎週金曜日)	29	(173)	
フリーマーケットinみなみ(自主)	6/19, 11/27, 3/12	10	(1153)	打ち合わせ, 事前準備, ボランティア(131名/7回)含む

Ⅲ-7. 伏見青少年活動センター

全体の動向

ここ数年、多文化共生事業の見直しを図っており、徐々にではあるが、関連団体との関係構築が進み、事業参加者も増え始め、地域や青少年に認知が広がってきている。また、利用者数は、上述の理由で事業参加者数は減少したが、青少年、一般共に施設利用は増加しており、前年度比42名の増加であった。

1. 多文化共生社会をめざした地域課題の解決と、その人材育成

(1) 多文化共生事業

① 多文化共生啓発プログラム

- 外国にルーツを持つ方と、日本人が気軽に多文化にふれ合える場として「国際交流カフェ」を開催。1ヶ月に2回、日本語での日常会話の練習をツールとした交流会「Japanese Talking Lesson」を、また、日本文化や外国の文化を紹介する「知って見よう！ふしみで外国のこと」(全9回)を開催した。
- 2015年度末で活動が終了したサラダボウルprojectのこれまでの活動をまとめた実践報告書を作成した。
- 多文化共生に関連した各種会議への出席他、関係団体と連携し、「健康フィエスタ」の開催、その他向島地域にて「ゴールデンウィーク特別企画inむかいじま2016」を、さらに「ときめき講座 こどもの貧困と多文化共生」と題して講座を実施した。
- NPOと協働し、青少年が気軽に多文化共生にふれあえる場として、国際協力やそこで働く職員のキャリアをテーマに、「多文化共生きほんのき アナタの知らない国際協力の世界」を開催した。

② にほんご教室(土曜クラス)

- 外国にルーツを持つ日本語を母語としない市民への学習支援活動を行なった。交流会を3回実施し、教室とは違った交流ができ参加者のルーツなどにも刺激された。青少年がリーダーとなり、教室運営に取り組んでおり、学習者のニーズに合わせ、マンツーマンと小グループ指導などの対応ができています。研修会を開催し、スキル向上も行った。次年度における北青少年活動センターでの開催を計画準備した。

2. 社会適応に困難を感じている若者に安心できる場やプログラムを提供

(1) 居場所づくり事業

① ロビーアクション

- 月に1回、スポーツルームAでごちゃまぜスポーツを実施した。
- NPO法人京都ARUとの共催でひきこもり経験者の話を聞く会や、女子高校生がカフェ出店を担当した恋愛カフェを実施するなど、多様な他者と関わる機会を創出した。

② パパ&ママのための居場所プログラム

- 「親子で英語musicを楽しもう」を実施、通年開催のため継続参加する中で参加者同士の仲が深まり、子育てについて情報交換が活発になされている。
- 「はのんの会」との共催で乳幼児をもつ親支援のワークショップを開催し、ボランティア申込者が多く、ボランティア活動の入り口としての機能を果たした。

3. 若者の地域交流・地域連携・地域参画を促進する事業

(1) コミュニティスペース事業

① つながりカフェの運営

- 青少年、一般市民の持ち込み企画によるイベント、及びコミュニティ・カフェを展開。イベントの主催や参加、飲食出店を通して、青少年のチャレンジする場として機能しただけでなく、青少年と市民がふれ合う機会となった。
- 多目的交流スペースでのギャラリー展示「つな画廊」を実施。6件の申し込みがあった。
- 2ヶ月に1回「手づくり市」(全6回)を開催。センターの認知につながっている。

4. 担い手育成事業

5月にボランティア募集説明会を実施。ボランティア登録者は年間118名だった。

5. 利用促進・情報発信・広報をすすめる

人と情報が集まり、さまざまな活動が生まれるような協働での情報発信の場づくりを目指した。

(1) 情報発信事業

① ふしみんなメディアパブスタジオ

- 青少年、一般市民の情報受発信を支援するため「ふしみんなメディアパブスタジオ」を設置。45件のスタジオ利用があった。
- 青少年ボランティアスタッフによる番組「パブスタ！」を半年間にわたって配信した。
- 御香宮神幸祭にて情報発信を実施。青少年8名の参加があり、青少年と地域がつながるきっかけとして機能している。

② ニュースレター“ふしみんな”の発行

- 青少年ボランティアそれぞれが自分の得意分野を活かしながら、地域に目を向け、年3回のフリーペーパー作り(記事取材作成、デザイン、編集など)に携わることができた。

(2) 利用促進事業

① フリータイム・自習室の設置

- 平日15時～18時にスポーツルームAを、火・木・土・日・祝日15時～18時に中会議室ABをダンスができるフリータイムとして開放した。
- 専用自習室の他に複数人で教え合いながら勉強できるグループ自習室を昨年に引き続き実施した。

6. 相談・支援事業に取り組む

発達段階、生活環境、個別課題などに応じた移行期支援を行う。

(1) 多様な価値に気づく体験型支援事業

① 中3学習会「STEP」

- 対象世帯の青少年に毎週木曜日(長期休み期間は毎週2回)学習支援活動を実施。登録8名中5名が高校へ進学した。3名は登録後、継続的な学習会参加につながっていない。
- 伏見区担当課のケースワーカーを対象に活動内容についての研修会と意見交換を実施した。

(2) 就労へのイメージを持てるような機会の提供

① サポートステーション職業ふれあい事業

- 従来からの就労支援プログラムに、ダンス創作(コンテンポラリーダンス)を取り入れたプログラムを1つ加えることができた。リラクゼーションによるストレス対処法の習得などは、精神面の安定に有効であり、就労の怖さを軽減し、就労意欲を高めるための準備として有効であった。

7. 少年非行の防止・軽減に向けた取り組み

- 少年非行の軽減に向けた取り組みとして、育成団体や学生団体と連携したストレス発散型の柔道教室を開催した。少年非行の直接的な軽減にはならないが間接的な非行防止になると捉え今後も取り組んでいきたい。

<行事一覧>

行事名	実施時期		回数	参加数 (のべ数)	備考
多文化共生事業					
多文化共生啓発プログラム	通年		61	(449)	国際交流カフェ, 多文化共生きほんのきのべ人数 (内ボランティアのべ167人)
実践報告書作成プロジェクト	8月～	※	11	(51)	
にほんご教室／土曜クラス	通年		40	(617)	内, ボランティアのべ291人
健康フィエスタ	7月～2月	※	5	(532)	来場者・スタッフ・事前会議含む
居場所づくり事業					
ロビーアクション	5月～	※	15	(217)	中高生向け事業, ごちゃまぜスポーツ
パパ&ママのための居場所プログラム (親子で英語ミュージックを楽しもう)	7月～		45	(770)	
パパ&ママのための居場所プログラム (ノーバディーズパーフェクト)	7月～9月	※	11	10(273)	内ボランティア登録16人, のべ55人
コミュニティスペース事業					
つながりカフェ(コミュニティ・カフェ)	通年		151	(1, 502)	出店者・来客・仕込日, 縁庭含む
つながりカフェの運営(手づくり市)	通年 隔月第2日曜		9	(876)	事前準備・出店者・来客・カフェ利用者含む
つながりカフェの運営 (つな画廊)	通年		24	(1, 247)	
担い手育成事業					
ボランティア説明会, 研修, 交流会	通年	※	6	(71)	(登録者数42人)
利用促進・情報発信事業					
ふしみんメディアパブスタジオ	通年	※	55	(92)	ワークショップ・番組配信・ボランティア説明会。ボランティアのべ31人
伏見の祭りプロジェクト	9月～11月	※	1	(14)	ボランティア登録8名
ニュースレター“ふしみん”の発行	通年		3	(3)	取材・作業日
フリータイム	通年		341	(3, 956)	中会議室及びスポーツルームA
自習室開放事業	通年		540	(8, 673)	グループ自習室含む
相談・支援事業					
STEP(中3学習支援)	通年		60	13(511)	内, ボランティアのべ268人
職業ふれあい事業	10月～11月		5	37	じぶんみがきダンス
少年非行の防止・軽減に向けた取組					
非行防止対策・軽減に向けた事業	11月～12月		2	(12)	柔道教室

※印・・・回数・人数にボランティアミーティングを含む。参加者数欄の()は, のべ人数

IV. 収益等事業

京都市内を中心として活動する, 市民団体・地域団体・企業等に青少年活動センターを活動場所として利用していただいた。

一般利用数 53,415人